

第13回総の国空手道大会 競技規定1

防具部門

- 1 原則として防具着用部分への拳足での打突を1ポイントとして、3ポイント先取り。
注特例（螺旋＝バックハンドブロー・後ろ回し蹴り・掛け蹴り・踵落としは可）
 - 2 基本的に打突技全て1ポイントですが、相手がダウンをした場合など2～3ポイントとなる場合が有ります。
 - 3 時間終了時点でポイント数の多い選手の勝ち（判定勝ち）。
本線引き分けの場合は一回のみ延長戦となります。
延長戦でポイントが入らない場合は判定となり、判定で引き分けた場合は
体重判定となります（計量の選手を勝者扱いとします）。
 - 4 瞬間的な掴みは可
 - 5 下段（ローキック）については、つなぎ技として単発の使用は可、
下段のみの攻撃は反則となります（例）下段で相手を崩し上段を突
く。
 - 6 場外は3回出た時点で相手に技あり1が入ります。
以降場外に出るごとに相手に技あり1が加算されます。（事前に審判より注意が出ます）
 - 7 反則技 ①投げ②足関節正面からの蹴り③金的への攻撃④倒れた相手への加撃
⑤顔面への肘及膝蹴り⑥首相撲 その他審判が危険と認めた行為
- 重反則は1回で失格、軽度の反則は2回で失格（事前に審判より注意が出ます）
- 8 相手の打突を下を向いて受け続ける行為は、無防備または戦意喪失と見なされ、
事前注意の後続けて同じ行為をした場合は反則を取られます。

グローブ部門

体重差4Kg未満の選手同士の対戦（体重差が4kg以上の場合両者の話し合いで決めます）

- 1 1分間1ラウンド（Jrは1分30秒）判定もしくはノックアウト（小学生は胴を着用）
- 2 ダウンは3秒以内に立ち上がりファイティングポーズをとれば、軽度のダウンとみなし
試合続行、ただしファイティングポーズをとっても、審判が続行不可能と判断した場合は
試合を止めます。
- 3 首相撲からの攻撃は、相手をコントロールした時点から3秒以内は可、
相手選手の足をキャッチしての攻撃は可、キャッチしてからの歩行は2歩以内。
- 4 相手の打突を下を向いて受け続ける行為は、無防備または戦意喪失と見なされ、
事前注意の後続けて同じ行為をした場合は反則を取られます。
- 5 反則技 ①投げ②関節正面からの蹴り③金的への攻撃④倒れた相手への加撃
⑤顔面への肘及膝蹴り、その他審判が危険と認めた行為
- 6 本線引き分けの場合は一回のみ延長戦となります。
延長戦でポイントが入らない場合は判定となり、判定で引き分けた場合は
体重判定となります（軽量の選手を勝者扱いとします）。